

Monthly essay



菜の花忌に

近

松という人は偉い人ですね。司馬遼太郎さんが近松門左衛門を誉めている。理由が面白い。「曾根崎心中」の主人公徳兵衛に、資本主義が作り出す「個人」の萌芽が見取れるという(司馬遼太郎全講演3、朝日文庫)。「死ぬる覚悟が聞きたい」。お初が徳兵衛に迫るせりふで、映画「国宝」の見せ所でもある。心中で究極の愛を成就させた「女の覚悟」に強烈なスポットライトが当たる。司馬さんはその逆光で見えにくくなった「男の覚悟」を論じたのである。店の主人に勧められた縁談話。絶対的な主従関係に従うか、恋人を取るか。「時代の中の個人の苦しみ」を書いたところに近松の手柄があるのだ。「徳兵衛の一生は、だれのものでもない、徳兵衛のものだ」という、モラルに苦しむ個人が共感を得たのです」江戸時代の心中事件を「商品

経済」「個人の目覚め」でとらえてみせた司馬さん。野暮ったい切り口のようにだが、純愛の純度は格段に高まった。「さすが」というしかない。司馬さんが亡くなって今年で30年。国内外の激動・激震にあきれ返り、呆然としながら、しきりに思う。「司馬さんだったらどう考えるのだろうか」文庫・選書・新書に収録されている著作は173作品(司馬遼太郎記念財団調べ、2024年1月現在)。直接の「解」はなくても物の見方のヒントは至る所にちりばめられている。図書館や古本屋を巡るまでもなく、今なお近所の書店で「司馬史観」の全体像にアクセスできることは「幸運」というしかない。そんな中で手にした「大阪の原形——日本におけるもつとも市民的な都市」(十六の話 中公文庫)。秀吉によって作られた独創的な都市が「経済首都」

「文化首都」として繁栄し、合理主義思想が人々の独立心を育てた歴史が語られている。73頁。歴史書として破格の薄さだが、無類に面白い。「史実に拠るべし」「大阪愛すべし」という強いメッセージが伝わってくる。たとえば町人が設立して146年間続き、幕府直轄の昌平(しょうへい)塾(江戸)をしのぐ学府となった懐徳堂についてはこんな具合だ。「私はこのまちにうまれた者として、かつてこのまちに懐徳堂があったことを思うとき、自然に微笑がうかぶほど誇らしいのである」亡くなったのは1996(平成8)年2月12日。享年72歳。命日は「菜の花忌」として親しまれ続けている。近鉄奈良線八戸ノ里駅などから司馬遼太郎記念館(東大阪市小阪)までの道に菜の花のプランター約1700個が飾られるという。早春の明るい道が目につかぶ。(わ)

2026 2/1~3/10 CALENDAR

2/3	火	節分
4	水	立春
5	木	大安
8	日	こと始め 針供養
11	水	建国記念の日 大安
14	土	バレンタインデー
19	木	雨水
21	土	大安
23	月	天皇誕生日
27	金	大安
3/1	日	春の全国火災予防運動(～7日)
3	火	ひな祭り
5	木	啓蟄 大安

2月 シティ信金行事予定

- シティ信金写経会
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 内外情勢調査会 大阪シティ支部2月例会
12日 正午から 帝国ホテル大阪にて
講師：元陸上幕僚長 岩田 清文氏
- シティトップランナークラブ 「令和7年度 第2回セミナー」
19日 午後5時30分から QUINTBRIDGEにて
講師：KMコンサルティング株式会社 代表取締役社長 久保 裕滋氏
- 地元への奉仕活動(清掃)
全店舗で実施

シティ信金協賛等行事予定

- 第53回八尾市駅伝競走大会
8日 午前9時 受付開始
久宝寺緑地陸上競技場にて



「星の瞳」とも呼ばれる小さな花

オオイヌノフグリ

2月から5月にかけて道端や畑、公園などさまざまな場所で見られることのできるオオイヌノフグリ。西アジア、あるいはヨーロッパが原産と言われていますが、日本に入ってきたのは明治初期(推定)。明治時代中頃に東京で見られるから急速に拡大し、1919年には全国で見られるほどになりました。小さな青い花びらが特徴的で、日の光で輝く花びらが星のように見えることから別名「星の瞳」とも呼ばれています。

高さは10cmから20cmほどしかないので地面いっぱい広がるように咲き誇り、俳人・高浜虚子はその光景を「空から降ってきた星のよう」と句でうたっています。花言葉は「忠実」「信頼」「清らか」です。これは学名「Veronica persica」の綴りが「聖女ベロニカ」と同じであることが由来と言われています。冬の厳しい環境にも負けずに咲く「星」のような花を楽しんでください。